



解答 I 1 ◎の下線部(1)を参照。 2 ◎の下線部(2)を参照。 3 may be because enjoyable activities tend to grab our attention 4 ページ上の単語に目を走らせてはいるが、何の情報も吸収していないという点が本来の意味とは異なるから。(49字) 5 ◎の下線部(5)を参照。 II 1 ◎の下線部(1)を参照。 2 アメリカ大陸に最初に移住したのが、最終氷河期に動物を追ってシベリアとアラスカをつなぐ陸橋を渡ってきたアジアからの人々だという説。(64字) 3 人工遺物が土壌の隙間を抜け、上方の地層からより古い地層へとずり落ちたということ。(40字) 4 (1) Human beings existed in the Americas before the Clovis era. (10語) (2) They are not well-shaped, lack notches and are lighter than Clovis tools. (12語) (3) The first people may have journeyed to the Americas by sea. (11語) III 1 ◎の下線部(1)を参照。 2 ア (D) イ (A) ウ (F) エ (E) オ (C) 3 (a) (き) (b) (あ) (c) (お) (d) (う) (e) (え) IV <以下、すべて解答例> (1) The girl who preferred reading books alone to playing with other children now plays an active role in Japan's national football team. (2) It is estimated that it takes an inordinate amount of time for magma, which is formed deep in the earth, to rise toward the earth's surface. (3) Entering the Meiji period, Japan invited many foreign engineers to introduce modern Western technology. (4) Although it may seem stranger today that people can be tricked by animals, it was stranger for the people in this village at the time not to be tricked by animals.

解説 I 1 define A as Bで「AをBと定義づける」の意味。daydreamingは「空想〔夢想〕にふけること」という意味の動名詞。shiftingは「移すこと」という意味の動名詞で、shifting以下が、shift A (away) from B toward Cという構造で「AをBからCへ移す(こと)」となる。from以下に注目すると、physicalとmentalが対になっていることから、これらが「身体の」と「精神の」との対比になっていることがわかる。またsomeは単数名詞taskにかかっており、「何らかの」と訳すのが適切。よってfrom～taskの部分は「何らかの主たる身体的または精神的作業から」となる。toward以下に注目すると、a sequence of～「一連の～」という表現がある。unfoldingは動詞unfoldの現在分詞で「展開していく」の意味。よってtoward以下は「展開していく一連の個人的な反応へ」となる。 2 figureが「目立つ、頭角を表す」という意味の自動詞であることに気づくことがポイント。prominentlyは「傑出して」という意味でfiguredを修飾しているので、文頭からstudyまでの部分は「ある研究において、平凡な関心事が傑出して目立った」となる。直後のthatは関係代名詞で、that以下文末までが先行詞studyを修飾して、その研究の内容を説明している。that以下の構造はVOになっており、how以下全体が動詞measured「～を測定した」の目的語に当たる。how以下に注目すると、「how much time+S+V」の形になっており、「どれだけの時間をSはVするのか」という名詞節(疑問詞節)になる。さらにspendはspend A doingで「～するのにAを使い果たす[費やす]」という意味を表すので、spend以下は「日常生活の中で心をさまよわせることに費やす」となり、how以下は「私たちはどれくらいの時間を日常生活の中で心をさまよわせることに費やすのか」となる。よってthat以下は、この内容を「厳密に測定した(rigorously measured)」という意味で研究内容を示し、先行詞studyがどんなものであったかを説明している。 3 ケイン氏とマクヴェイ氏による実験について述べられた段落の最終文に当たるので、何らかの結論めいた内容になると推測

できる。整序問題では、まずバラバラに並んだ単語から、ほかの単語と結びつくことが考えにくい語句や熟語などのかたまりを作るのがポイント。ここではtend to「～の傾向がある」、grab our attention「私たちの注意を引く」、enjoyable activities「楽しい活動」など。また、becauseのあとは「S+V」の形になると考えると、選択肢内唯一の名詞句enjoyable activitiesがS、grab our attentionがVと推測できる。あとは残ったmay, be, tend toを、それぞれの意味を考えながら、主語Thatとbecauseの間、およびactivitiesとgrabの間に入れればよい。

4 単語に引用符をつける理由として、その単語が本来の意味とは異なる意味で使われていることを示すということが挙げられる。ここではreadingが、一般的な「読む」という行為とどのように違った意味で使われているかを考える。「～にもかかわらず」の意味で意外性を示すyet以下文末までに注目する。moving our eyesが「私たちの目を動かすこと」。over the wordsが「単語の上を」で、on a pageが「ページ上の」という意味でwordsを修飾している。movingは動名詞で、readingやabsorbingと同様にexperience ofからつながっているため、この部分は「ページ上の単語に目を走らせる(という経験)」という内容になる。続くasは「～する時[間](に)」の意味で時を表す接続詞。our attention wandersは「私たちの注意がさまよう」、the text turns unintelligibleは「本文が判読できなくなる」なので、as以下は「私たちの注意がさまよい、本文が判読できなくなる間に」となる。解答では、筆者が一般的な「読む」という行為とは違う、注意がさまよって内容を理解しないままに単語を目で追っているだけの行為の意味で「read(読む)」という語を使うことを示すために引用符をつけた点を指摘すればよい。 5 まずはAimless rambling across the moors of our imaginingsという長い主部に注目する。aimless ramblingは「目的のない散策[ぶらぶら歩き]」、across the moorsは「原野を横切る」、of our imaginingsは「私たちの空想の」という意味なので、主部全体で「私たちの空想の原野を横切る





目的のないぶらぶら歩き」という意味になる。「散策」や「原野」というのは比喩的な表現で、精神世界の話をしているのだということを理解しておく。次に述部に注目する。lead A to do は「A を～するよう仕向ける」の意味。

stumble on ～には「～に偶然出くわす [遭遇する]」という意味があるので、この部分は「私たちがアイデアや連想 (ideas and associations) に遭遇するよう仕向ける」となる。続く that は関係代名詞で、that 以下文末までが先行詞 ideas and associations を修飾している。この that 節の中がさらに if 節を含む複文になっている。strive to do が「～しようと努力する」なので、if 節は「もし私たちがそれら (=ideas and associations) を探し求めようと努力したら」となる。that 節内の主節 we may never find は「私たちは決して見つけられないかもしれない」なので、従属節 (if 節) と合わせて「もし私たちが探し求めようと努力したら決して見つけられないかもしれない」が that に導かれて「アイデアや連想」を修飾する。最後に、前述の主部が、そのような「アイデアや連想」に「私たちが遭遇するように仕向けるかもしれない」というふうにつなげる。

◎ ほとんどの人が目を覚ましている時間のおよそ30パーセントを、空想にふけったり、ぼんやりしたり、うとうとしたり、物思いにふけったりすることに費やしている。エール大学心理学名誉教授の⁽¹⁾ジェローム・シンガー氏は、空想にふけることを、注意力を何らかの主たる身体的または精神的作業から、展開していく一連の個人的な反応へ移行させることと定義している。86歳のシンガー氏は、1975年の著作『空想の内部世界』の中で、空想についての彼の数十年にわたる研究の熱情的な報告を発表したが、そこで彼は空想の様式を、楽天的で想像的な思考を含む「肯定的・建設的な」ものと、失敗や罰の想像を含む「不快な」ものの、2つの主要なカテゴリーに分類している。ほとんどの人が多かれ少なかれその両方の種類を経験する。

ほかの科学者たちは、ありふれた熟考と非現実的な空想とを区別する。ノースカロライナ大学グリーンズボロ校の認知心理学者であるマイケル・ケイン氏は、「意識の散漫」を「目の前の作業とは無関係のあらゆる思考」であるとしなしている。彼の考えでは、意識の散漫は、夕食のレシピの材料を思案することから、宇宙人の侵略から地球を救うことまでのすべてのことを含むかもしれない広義の分類である。人々が意識の散漫に陥る時はほとんど、彼らは日常の関心事について考えている。例えば最近の出会いや、彼らのやることリストに載っている項目などである。ジェームズ・サーバーによる、人並み外れた架空の夢想家ウォルター・ミッティー流のもっと風変わりな空想——例えば、8気筒エンジンの水上飛行機を操縦してハリケーンを通り抜けるというミッティーの夢のようなもの——は珍しい。

⁽²⁾私たちが日常生活の中でどれだけの時間を意識をさまざまよわせることに費やしているのかを厳密に測定したある研究では、平凡な関心事が傑出して目立っていた。2009年の研究で、ケイン氏と同僚のジェニファー・マクヴェイ氏は、

72人の学生に、1日に8回ランダムな間隔でピープ音が鳴る携帯機器を一週間持ち歩くよう求めた。その後被験者はアンケート用紙にその瞬間の彼らの思考を記録した。ピープ音のおよそ30パーセントが、目の前の作業とは無関係の思考と同時に起こった。意識の散漫は、ストレスや退屈、眠気とともに、あるいは混乱した環境の中で増加し、楽しい作業とともに減少した。それは、楽しい活動に私たちの注意を引く傾向があるからかもしれない。

私たちの問題への神経を張り詰めた集中が、いつも即座の解決につながるとは限らないかもしれない。それよりも、心が自由に漂うにまかせることで、私たちは表面下でさまざまよっている無意識の考えに到達できるようになりうるのだ。カリフォルニア大学サンタバーバラ校の心理学者ジョナサン・シューラー氏によれば、それは創意に富んだ洞察につながりうるプロセスだということだ。

私たちは、自分たちが空想にふけていることに気づいてすらいないかもしれない。私たちはみんな本を⁽⁴⁾「読み」ながらも何も吸収しないという経験——私たちの注意がさまざまよ、本文が判読できなくなる間にも、ページの上の単語に目を走らせるという経験——をしたことがある。「人々はしばしば自分たちが空想にふけている間、空想にふけていることに気づかない。彼らには、私が呼ぶところの『メタ意識』、すなわち彼らの心の中で現在何が起きているかの自覚、が欠けているのだ」と彼は言う。⁽⁵⁾私たちの空想の原野を横切る目的のないぶらぶら歩きは、探し求めようと努力をしたら決して見つけられないかもしれないアイデアや連想に私たちが遭遇するよう仕向けるのかもしれない。

Ⅱ 1 文の前半は時を表す when 節。関係代名詞 who 以下 tools までは先行詞 people を修飾しているため、「テキサス(で発掘された)道具を作った人々」となる。migrate は「移住する」なので、when 節は「テキサスで発掘された道具を作った人々が移住した時」となる。文の後半の構造は SVOC になっており、「make+O+C」で「O を C にする」の意味。よって、made travel by land difficult は「陸路を使つての移動を困難にした」となる。主節全体は「would have+過去分詞」の仮定法過去完了の形になっているので、「氷床は～したであろう」と訳す。仮定法過去完了は、過去の事実と反する仮定を表すのに用いられるが、ここでは一つあとの文からもわかるように、実際には陸路ではなく海路を使ったという説が有力であるため、「もしも陸路を使っていたならば」という、事実と反するであろう仮定を含んでいると考える。 2 下線部(2)の直後に says that ～「～と示している」という表現があるので、これ以下に“Clovis first”の説明が書かれていることがわかる。この that 節の基本構造は SVO で、during からカンマまでが「～の間に」という意味の副詞節になる。last Ice Age は「最終氷河期」。that 節の主語は people from Asia 「アジアからの人々」で、動詞が followed 「～のあとについて来た」、目的語が herd animals 「群を作る動物」。across a land bridge は「陸橋を渡って」の意味で、現在





分詞 connecting 以下 Alaska までが「シベリアとアラスカをつなぐ」の意味で land bridge を後ろから修飾している。settlements は「開拓地」で established the first settlements ~. の主語は文の主語と同じ people from Asia である。またこの仮説は、同段落 1 文目の「最初のアメリカ人が誰で、いつ、どこから来たのか」という問いに対する有力説として提示されている点にも注目し、何が“first (最初)”なのかについても説明する。 3 下線部(3)の this が含まれる文は、argue that ~ 「~と主張する」の that が省略された文だと考える。that 以下に当たる this is not likely to have happened here に注目すると、not likely to ~ が「~しそうにない」、have happened が「起こった」なので、文全体では「しかし、ウォーターズ氏のチームは、それがここで起こったとは考えにくいと主張している」となる。this は一般的に直前に述べられた内容を指し、ここでは一つ前の文がそれに当たる。artifacts は「人工遺物」の意味。「could have+過去分詞」は、「~したかもしれない」と過去の可能性を表すので、could have slipped は「ずり落ちたかもしれない」となる。over time は「時間が経つにつれて」。through such gaps は「そのような(前文で説明されたような)隙間を通して」。from A to B は「A から B へ」なので、この部分は「より上部のクロヴィスの地層から、より古いバターミルク・クリークの地層へ」となる。この文の内容を40字以内で簡潔にまとめればよい。 4 (1) 問いは「クロヴィス時代の土の層は、新しい道具が発見された地層の上にある。ウォーターズ教授と彼の同僚たちはこの事実からどのような結論を下したか。10語程度で答えよ」。1文目の dating は date の現在分詞。date from ~ は「~に起源を持つ」の意味で、dating from the Clovis era が後ろから layer of soil 「土の層」を修飾している。where は関係副詞で、それ以下が「新しい道具が発見された」の意味で layer を修飾している。「クロヴィス時代に起源を持つ土の層が、新しい道具が発見された地層の上にある」ということは、クロヴィス時代より古い地層に道具が発見されたということである。conclude from ~ は「~から結論づける」の意味。ウォーターズ氏の主張は第3段落半ばから最終段落まで続くが、最も結論に近い主張は第3段落4文目の“**What we have found is evidence of early human occupation dating back to 15,500 years ago, 2,500 years older than Clovis,**”の部分である(前文訳の該当部分参照)。つまり「クロヴィス以前にもアメリカ大陸には人類が存在していた」と結論づけたのである。(2) 問いは「新たに発見された道具には、クロヴィスの道具と比べてどんな3つの違いがあるか。15語程度で答えよ」。第4段落2文目でクロヴィスの技術の特徴が述べられ、続く3文目(In contrast, the newly discovered tools are not well-shaped, lack notches and are lighter than Clovis tools.)でそれと比較した新しい道具の特徴が述べられている。In contrast は「それに対して」、newly discovered は「新たに発見された」で tools 「道具」を修飾している。not well-shaped 「形が良くない」、

lack notches 「V字型の切り込みがない」、lighter than Clovis tools 「クロヴィスの道具よりも軽い」、が具体的な3つの違い。(3) 問いは「新しい道具の年代は、最初の人々がアメリカ大陸に到達したルートについて何を示唆するか。10語程度で答えよ」。1文目の which は目的格の関係代名詞で、「~で」と手段を表す前置詞 by の目的語になっている。ルートについての記述があるのは第7段落で、そこには新たに発見された道具が作られた年代には氷床が溶けていて陸路での移動は難しかったということが書かれている。最終文の **Instead, whoever made the stone tools at the Buttermilk Creek site may have journeyed to the New World by sea.** がルートに関する新説のまとめなので、この部分を10語程度にまとめればよい。whoever は「誰が~しようとも」を意味する関係代名詞なので、whoever ~ site の部分は「バターミルク・クリーク遺跡の石器を作ったのは誰であれ」となる。「may have+過去分詞」は「~をしたかもしれない」で、journey は「旅する」の意味。the New World は「新世界(=アメリカ大陸)」の意味。by sea は「海路で」。

◎ アジアから来た石器時代の探検家が、どのようにアメリカ大陸へと渡り、両大陸に移住したかについての話を書き直す時が来た。クロヴィス人は最初のアメリカ人という肩書きの有力候補だった。しかし、テキサスで新たに発掘された道具の埋納遺跡は、クロヴィス文化の時代の数千年前に、その土地に人が居住したことを示唆している。⁽¹⁾ テキサスで発掘された道具を作った人々が移住した時、氷床は陸路による移動を困難にしたであろう。これは、アメリカ大陸への移住が陸からではなく海から行われたという仮説をサポートしている。

最初のアメリカ人が誰か、彼らがどこから来たか、そしていつ来たか、というのは、研究者たち間で議論的となる問題である。⁽²⁾ 「クロヴィス・ファースト説」として知られる一つの支持される説によれば、最終氷河期の間にアジアからの人々が、群を作る動物を追ってシベリアとアラスカをつなぐ陸橋を渡り、北アメリカに最初の開拓地を建設した、ということだ。クロヴィス文化は先の尖った石器に特徴づけられる。

しかし最近の、このテキサスの新しいものを含む、クロヴィス文化に先立つ人工遺物の発見は、クロヴィス・ファーストの仮説に異議を唱えてきた。その新しい埋納遺跡には15,528点という、これまでに発見されたクロヴィス以前の石造物の中で最も大規模な集まりが含まれている。それは、おそらくほかの道具から砕け落ちたのであろうたさんの石の剥片や薄片、破片の中に、保存状態の良い56点の道具を含んでいる。「私たちが発見したものは、15,500年前、つまりクロヴィスよりも2,500年古い時代にさかのぼった初期の人々の居住の証拠である」と、この研究の代表執筆者であるマイケル・ウォーターズ氏は語る。ウォーターズ氏と彼のチームは、テキサス中部のバターミルク・クリークにある保存状態の良い地層で、初期の道具セットを発見した。その真上には、別の明確なクロヴィスの時代の地層





があった。

その物体は明らかに人の手によって形作られているが、クロヴィスの道具ほど精巧ではなく、チームはそれらを原型であると称している。クロヴィスの技術の特徴は、慎重に彫られた、薄くかみそりのように鋭い縁を持つ楕円形の石と、それをやりやナイフの柄に取り付けるために底面につけたV字型の切り込みである。それに対して、新たに発見された道具は形が良くなく、V字型の切り込みがなく、クロヴィスの道具よりも軽い。ウォーターズ氏は、それらの製作者の子孫が後にクロヴィスの技術を創り出したのかもしれないと考えている。

ほかの人々も、その発見が重要であることに同意している。「これは私には、人々がクロヴィスと結びつけて考える年代よりも古い考古学の、とても信頼できる一例に見える」と、別の大学の考古学者であるダグラス・バンフォース氏は言う。「彼らは、堆積物の年代を記録するというすばらしい仕事をしてきた。」彼は、道具は時代を経て位置を変えたかもしれないと指摘している。「これらの人工遺物が本物ではないと主張する人は誰もいないだろう。しかし問題はそれらが、属していたまさにその場所から本当に見つかったかどうか、あるいは上方から沈下したのかどうか、ということである。」

穴を掘るげっ歯動物や植物の根、そして地質学的活動はすべて土壌に割れ目や隙間を創り出す。それらの人工遺物は、時間が経つにつれて、そのような隙間を通して、より上部のクロヴィスの地層から、より古いバターミルク・クリークの地層へとずり落ちたかもしれない。しかしウォーターズ氏と彼のチームは、⁽³⁾それがここで起こったとは考えにくいと主張する。第一に、その場所は特に地質学的に活発というわけではなく、チームは物体が通り抜けて落ちるのに十分な大きさのいかなる割れ目をも見つけなかったのだ。第二に、もし陸地が位置を変えて、人工遺物を移動させていたら、その変化は異なる土の層の磁気特性図に現れているだろうが、チームが磁気記録を分析しても、そのような擾乱(いぼらん)(※局地的な地殻変動)の痕跡は見つからなかった。最後に、チームは彼らが3Dのジグソーパズルのピースのように、石の薄片をつなぎ合わせられることを、そしてはまったピース同士はいつも陸地の単一層から出てきたことを示した。言い換えれば、それらの破片は元々埋藏された場所から動いていなかったということだ。

その新たな発見はまた、アジアとアメリカの間の陸橋がアメリカ大陸への唯一のルートではなかったことを示唆している。1万5000年前、シベリアの人々はアラスカに渡って北アメリカに南下していくことは簡単にはできなかったであろう。なぜならその時期の主要な氷床は溶解しており、陸橋を渡ったあと北アメリカへ向かって行くのを妨げていたからだ。そうではなく、バターミルク・クリーク遺跡の石器を作ったのは誰であれ、海路で新世界(※アメリカ大陸)に旅してきたのかもしれない。

「私たちは今、パラダイム・シフト寸前の所にいるのだと思う」とウォーターズ氏は言う。「私たちはクロヴィス・

ファーストというモデルを通り越している。私たちには、クロヴィス以前にここに人がいたという、確実な地質学的状況にあって十分に年代測定された、しっかりとした証拠がある。今や私たちは本気で腰を据えて、アメリカ大陸への人類の移住についての新たなモデルを創り出すことができる。」クロヴィス・ファーストの問題は一件落着いたように見えるが、北アメリカにおいて、最初の人間による移住の時期を押し戻すことを狙った新しい段階が、疑いなく今始まるのだ。

Ⅲ 1 主部は The goal of the project で「そのプロジェクトのゴール」。文全体の構造は SVC で、to 不定詞以下が「～すること」の意味で補語になっている。to break down が「打ち壊すこと」で、barriers は「障壁」。that は barriers を先行詞とする目的格の関係代名詞で、that humans have built が「人間が作ってきた」の意味で barriers を修飾している。さらに続く which は主格の関係代名詞で、その先行詞も barriers である。allow A to do は「A が～することを許す」で、treat A as B は「A を B として扱う」の意味。not as creatures with feelings も treat non-human animals からつながっていると考えるので、which で始まる関係代名詞節は「私たちが、人間以外の動物を、感情を持った生き物としてではなく物として扱うことを許す」という意味で、barriers 「障壁」を修飾している。

2 (ア) インタビュー対象であるジョアンさんを紹介している箇所。空欄直後の、in the following interview、「続くインタビューで」は挿入句なので、the sometimes sordid 以下が空欄に入る動詞の目的語になる。この部分は「時に汚れて痛ましい、しばしば息をのむほど美しい、そして常に感動させる We Animals の世界(を)」という内容なので、ジョアンさんがインタビューでこの内容を「論じる＝discuss」とするのが適切。(イ) ジョアンさんが自分の活動の原点について述べている箇所。「私の写真の才能と動物への愛情を(イ)できることに気づいた」という内容になるので、「～と」を表す with に着目し、combine A with B 「A と B を組み合わせる」という表現を導き出す。

(ウ) ここもジョアンさんが自分の活動の原点について述べている箇所。and 以下に注目すると、関係代名詞 that 以下が project を修飾する形になっている。「彼ら(＝動物たち)の窮状についての認識を(ウ)することを助けるプロジェクトを作る」という内容になるので、raise awareness 「認識を高める」という表現が適切。(エ) ジョアンさんが動物の撮影をどう感じ、それにどう対処しているかを述べている箇所。It's extremely upsetting being there は「そこ(＝動物を撮影している悲惨な状況)にいることは極めて気持ちの乱れることだ」という意味で、そこから but 「しかし」でつながっているのが、それ以下は彼女が何らかの前向きな対応をするという内容になることが推測できる。「私はそのことは脇に(エ)しなければならない」という内容になるので、put A aside 「A を脇に置く」という表現が適切。

(オ) ここもジョアンさんが撮影中の自分の感情にどう対処しているかを述べている箇所。Mind you は「そうは言っ





ても」と注意を引く表現。plenty of ～は「たくさん～」、as a result of ～は「～の結果として」、being in these places は「そのような場所(＝動物を撮影している悲惨な状況)にいること」の意味で、自分が撮影中に辛い思いをしていることを述べている。but 以下は「私はそれらのことにはあとで(オ)する」という内容になるので、直後の with に着目し、deal with ～「～に対処する」という表現を導き出す。3 (a) この質問に対するジョアンさんの回答には、世界を回って恵まれない環境にある動物の撮影をしたいという彼女の目標が書かれている。よって、彼女の今後の活動内容を問う(カ)が適切。(b) この質問に対するジョアンさんの回答は「私は、どんな種類の映像を撮影するのかを自分がどのように決めるかを説明できないと思います」なので、撮影対象の決め方について質問されていることがわかる。(ア)が適切。(c) ジョアンさんの回答に、photographing them という表現があるので、インタビュアーの質問中に animals が入っているということが推測できる。この段落では、彼女が撮影の際に感じる気持ちの揺れについて述べられているので、(オ)が適切。(d) この質問に対してジョアンさんは、自分の撮った写真が人々に動物に対する新たな認識を持たせられれば良い、という旨の発言をしている。さらに、Awareness.「意識[認識]です」というたった一語で回答していることもヒントになる。(ウ)が適切。(e) この質問に対するジョアンさんの回答を簡潔に言うと「後に友達や家族になる人々と出会ったこと」。この最終段落には、この出会いが彼女にとってどれ程すばらしいものかということが書かれているので、(エ)が唯一の適切な選択肢。

◎ ジョアン・マッカーサーさんは写真家であり、動物の権利の活動家である。彼女のプロジェクトである“*We Animals*”は、今や13年目を迎えている。当初から彼女は40を超える国々で、動物たちに起きていることの現実を記録してきた。彼女は、次に続くインタビューで、時には汚れた、そして痛ましい、しばしば息をのむほど美しい、そして常に感動させる *We Animals* の世界を論じる。

インタビュアー：*We Animals* について教えてください。
ジョアン・マッカーサー：*We Animals* は、人間環境にいる動物を写真を通して記録する、意欲的なプロジェクトです。名称は、主題や解釈、含意の点で意図的に幅を広く持たせてあります。プロジェクトの前提は、人間も、私たちが食料や衣類、研究、実験、仕事、娯楽、奴隷、仲間にする生き物たちと同様に、動物なのだということです。⁽¹⁾このプロジェクトのゴールは、人間以外の動物を感情を持った生き物としてではなく物として扱うことを私たちに許している、人間が作ってきた障壁を打ち壊すことです。

インタビュアー：^(a)あなたの使命は何ですか。
ジョアン：私の目標は、見た人がこれらありふれた、しばしば気づかれぬような利用、虐待、空間の分かち合いの状況の中に新たな重要性を見つけてくれるように、私たちと動物との関わり合いの写真を撮りながら、世界中を回ることです。

インタビュアー：*We Animals* への起動力は何でしたか。
ジョアン：私はいつも動物を助けてきました。彼らを救助したり、引き取ったり、地域の収容施設で犬を散歩させたり子猫に人工乳を与えたり、そのようなことです。ある時点で、おそらく2000年ごろでしたが、私は自分の写真の才能と動物への愛情を組み合わせ、彼らの窮状に関する認識を高めるのに役立つプロジェクトを作ることができることに気がつきました。私は家の近くで、サーカス団や肉屋などの撮影を始めましたが、私は常に旅行することが大好きだったので、プロジェクトの範囲は自然と遠くまで広がりました。プロジェクトは今や世界的になり、私たちと動物との関わりについての情報の成長する保管所であり続けます。

インタビュアー：ジーン・パウアー氏がとても雄弁に語ったように、*We Animals* の写真は「人間の最良の部分と最悪の部分明らかにしています。」^(b)あなたはどのように写真の場面を選ぶのですか。

ジョアン：私は、どんな種類の映像を撮影するのかを自分がどのように決めるかを説明できないと思います。私は可能な限りたくさん旅をして、活動のために写真を撮るので、良い写真へのニーズがある場所や、動物あるいは動物たちの話がある場所、私はそういう所に行こうとしています。いったんそこに着いたら、長丁場になります。広角レンズを使い、危機一髪の連続です。

インタビュアー：^(c)困窮している動物を記録するというのはどんな感じですか。

ジョアン：私が悲惨な状況で彼らを写真に撮っている時、私は思いやりと決意を持って仕事をするためにそこにいます。私は証言をするため、記録するため、そしてこれらの動物について語るためにそこにいるのです。そこにいることは極めて気持ちの乱れることですが、私はそのことは脇に置いておかなければなりません。そうは言っても、私はこれらの場所にいることの結果として、たくさんの涙を流し、たくさんのストレスを受けてきました。しかし私はそれらのことにはあとで対処するのです。

インタビュアー：^(d)あなたは人々が *We Animals* から何を得ることを望みますか。

ジョアン：意識です。私は映像が人々を引きつけ、彼らに違う角度から動物について考えさせることを望んでいます。このプロジェクトの目的は、動物を虐待することを私たちに許している障壁を打ち壊すことです。私はこれらの写真に、深く取り消せないほどに人々の心を動かしてほしいと思っています。

インタビュアー：^(e)あなたの仕事の最も良かったところは何か。

ジョアン：もちろん、後に友人や家族になったほかの活動家や避難所の所有者と出会ったことです。特に私が彼らと共に何度も働いたり活動したりしたときです。私がほかの活動家や厳格な菜食主義者とながらいつの間にか、すばらしい一体感があります。私は、自分が目撃したことのために暗い場所にいる時にも、ひとりぼっちではありません。





ほかにもとてもたくさんの人々がこの仕事をし、理解してくれているのです。これらの勇気を与えてくれる人々が人生にいて、私は非常に幸運です。

Ⅳ (1) 読点の前までを主部と考える。主語が「少女」なので、それを who に導かれた関係代名詞節が後ろから修飾する形にする。「B よりも A の方が好き」は prefer A to B で、「遊ぶこと」と「読書をする事」を比較するので動名詞を用いる。これで主部 The girl who preferred reading books alone to playing with other children が完成する。次に述部を組み立てる。「～で活躍する」は play [take] an active role[part] in ～ で表すことができる。よって述部は now plays an active role in Japan's national football team. となる。 **(2)** 「～と推定されている」は It is estimated that ～ で表す。それ以下の基本構造は「A が～するには(時間)がかかる」なので、この部分は it takes (time) for A to do で表す。「途方もない時間」は an inordinate[excessive] amount of time や、「極端に長い時間」ととらえて an extremely long time などとしてもよい。A に当たる「マグマ(=magma)」は「地中奥深くに形成された」という語句で修飾されているので、which で始まる関係代名詞節を付け加える。「形成された」は受け身形で be formed, 「地中奥深くに」は deep in[under] the earth[ground] で表すので、上記 A に当たる部分は magma, which is formed deep in the earth, と表現できる。「地球の表面へと上昇する」は rise toward the earth's surface[the surface of the earth] など。 **(3)** 基本構造は「S(日本は)+V(招いた)+O(技師を)」で、ここに様々な修飾語句が付く。まず文頭の「明治時代に入ると」は、分詞構文 Entering the Meiji period[era] で表すことができる。「招く」は invite, 「外国人技師」は foreign engineers. 「～するために」の部分は to 不定詞の副詞的用法を用い、to introduce modern Western technology などとする。

(4) 日本語の文は主語や動作主が曖昧な部分があるので、まずその点を整理する。「だまされる [だまされない]」という受け身表現の主語となるのは「(一般の)人々」であり、「不思議に思われる」の動作主も「(一般の)人々」である点をふまえて訳す。まず文頭の「～かもしれないが」の部分は、Although[Though] ～ で表す。「～が不思議に思われる」は seem (to be) strange that ～ の形で表せるが、「～の方が(より)不思議」という比較の要素があるので、strange を比較級にする。that 以下は「(人々が)動物にだまされること」という内容になるので、trick 「だます」という動詞を使って、that people can be tricked by animals のように受け身の表現にする。「いまなら」はここでは「今日では」と同義と考え today として、stranger を後ろから修飾する。「当時の～不思議だったのである」の部分は、「～することは(人)にとって…である」という形になっていると考えられるので、「it is+形容詞+for+人+to 不定詞」の形を用いる。「不思議な」を意味する strange はここでも比較級で用いる。「人」に当たる「当時のこの村の人たち」は the people in this village at the

[that] time などとする。to 不定詞の部分は「(動物に)だまされないこと」という否定の受け身の表現なので、to の前に not を入れ、not to be tricked by animals となる。

